

仏教（仏様）と神道（神様）の相互包摂の事例を取り上げる。

我が家の菩提寺、岩波の新福山石行寺（天台宗／宗教法人）の**現職の副住職（当時の役職、今は住職）が神社で神前結婚式を挙げた**ことを紹介する。

素晴らしい神職と僧職のコラボである。

・・・2015(平成 27)年の 3 月に結婚式を挙げたが、その場所は山形市内図-40 とおりの「鳥海月山両所宮」――祭神は、鳥海山『鳥海山大物忌神社』の神のうかのみたまのみこと“倉 稻 魂 命”と、月山『出羽三山』の神のつくよみのみこと“月夜見命”――であった。寺の住職は一般的には、自分の寺で行うとか、縁の強い寺で行うとか、いずれにしても寺院で行うだろうが、自分は神道神社で行った。なぜなのか。明治の神仏判然の動きを受け、廃れていた石行寺を再興した住職がいた、そこで今の佐藤性に繋がる初代住職が修行していた事から、その縁に思いを致し、その処を選んだ。自分と父親は住職（僧職）の正装（導服）を着用した。儀式は、両所宮の神主さんに全てをお任せし、神職の正装を以って神道形式で挙行了た。神主さんからは、現職の住職の結婚式は初めてだ、と言われた。・・・



図-40

この話を伺った時、何と素晴らしいことか、これはすごい、素人の私は「畏み畏み申す」と心で唱えた。私は感激のあまり、胸の奥底が震え熱くなるのを覚えた。会場はこの近辺で縁が深い天台宗は山寺の立石寺や天童の若松寺ではないのか、と直感したが、見事に外れたのである。列記とした神社本庁包括の宗教法人両所宮の神社で挙行了たことである、何と素晴らしいことではないか。双方の関係者みんなに敬意と拍手を送りたい、畏敬の念で一杯である。逆に神主（神職）が寺院で結婚式を挙げた事例を知りたい！

ここでは拍手を打つとか、ここでは打ってはだめだという、ここでは合掌だとか、ここでは合掌でだめだとか、そんなみみっちい・稚拙な主張や、法流・仕来りの形式は雲散霧消した世界である。

(end)